

平成25年第4回9月横手市議会定例会会議録

議事日程（第2号）

平成25年8月27日（火曜日）午前10時開議

- | | | | |
|-----|-----|-----|--|
| 第 1 | 認定第 | 1号 | 平成24年度横手市一般会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 2 | 認定第 | 2号 | 平成24年度横手市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 3 | 認定第 | 3号 | 平成24年度横手市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 4 | 認定第 | 4号 | 平成24年度横手市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 5 | 認定第 | 5号 | 平成24年度横手市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 6 | 認定第 | 6号 | 平成24年度横手市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 7 | 認定第 | 7号 | 平成24年度横手市介護老人保健施設特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 8 | 認定第 | 8号 | 平成24年度横手市指定通所介護事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第 9 | 認定第 | 9号 | 平成24年度横手市障害者支援施設特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第10 | 認定第 | 10号 | 平成24年度横手市市営温泉施設特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第11 | 認定第 | 11号 | 平成24年度横手市土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第12 | 認定第 | 12号 | 平成24年度横手市集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第13 | 認定第 | 13号 | 平成24年度横手市浄化槽市町村整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第14 | 認定第 | 14号 | 平成24年度横手市横手町四町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第15 | 認定第 | 15号 | 平成24年度横手市横手地域財産管理特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第16 | 認定第 | 16号 | 平成24年度横手市前郷地区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第17 | 認定第 | 17号 | 平成24年度横手市金沢中野財産区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第18 | 認定第 | 18号 | 平成24年度横手市西成瀬財産区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第19 | 認定第 | 19号 | 平成24年度横手市醍醐財産区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第20 | 認定第 | 20号 | 平成24年度横手市里見財産区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第21 | 認定第 | 21号 | 平成24年度横手市福地財産区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第22 | 認定第 | 22号 | 平成24年度横手市館合財産区特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第23 | 認定第 | 23号 | 平成24年度横手市病院事業会計決算の認定について |
| 第24 | 認定第 | 24号 | 平成24年度横手市水道事業会計決算の認定について |
| 第25 | 認定第 | 25号 | 平成24年度横手市下水道事業会計決算の認定について |

本日の会議に付した案件

議事日程第2号に同じ

出席議員（28名）

1 番	木 村 清 貴	2 番	佐 藤 誠 洋
3 番	高 橋 聖 悟	4 番	土 田 百合子
5 番	青 山 豊	6 番	齊 藤 勇
7 番	立 身 万千子	8 番	鈴 木 勝 雄
9 番	小 野 正 伸	10番	遠 藤 忠 裕
11番	土 田 祐 輝	13番	小 沢 秀 宏
14番	堀 田 賢 逸	15番	佐 藤 德 雄
16番	佐々木 誠	17番	菅 原 惠 悦
18番	齋 藤 光 司	20番	佐 藤 清 春
21番	佐 藤 忠 久	22番	寿松木 孝
23番	播 磨 博 一	24番	佐々木 喜 一
25番	佐 藤 功	26番	塩 田 勉
27番	奥 山 豊	28番	阿 部 正 夫
29番	高 橋 勝 義	30番	田 中 敏 雄

欠席議員（なし）

説明のため出席した者（31名）

市 長	五十嵐 忠 悦	副 市 長	鈴 木 信 好
副 市 長	佐 藤 良 吉	教 育 長	高 橋 準 一
総務企画部長	浮 嶋 伸	財 務 部 長	石 山 清 和
市民生活部長	小 丹 茂 樹	健 康 福 祉 部 長	柴 田 恒 宏
産業経済部長	遠 藤 久 志	建 設 部 長	照 井 康 晴
上下水道部長	鈴 木 弘 志	教 育 総 務 部 長	小 川 良 平
教育指導部長	佐 藤 稔	消 防 長	伊 藤 弘 明
市立横手病院 事務局長	佐 藤 正 弘	市立大森病院 事務局長	金 澤 和 彦
総務企画部次長 兼 人 事 課 長	皆 川 規 和	総務企画部次長 兼 市 長 公 室 長	小 田 嶋 利 宏

総務企画部長 総務課長	佐藤 亮	総務企画部長 経営企画課長	渡部 幸伸
財務部財政課長	三浦 淳	横手地域局長	武田 浩一
増田地域局長	遠藤 晴美	平鹿地域局長	高橋 嘉
雄物川地域局長	杉山 哲	大森地域局長	高山 勇光
十文字地域局長	鈴木 淳悦	山内地域局長	照井 礼司
大雄地域局長	小松田 文夫	代表監査委員	佐藤 耕一
会計管理者	佐藤 誠		

事務局職員出席者

事務局 局長	高橋 実	主 幹	村上 伸夫
総務担当主査	小田嶋 あけみ	議事調査担当主査	長瀬 肇
議事調査担当主査	松井 尊臣		

◎開議の宣告

- 佐藤清春 議長 おはようございます。
ただいまから本日の会議を開きます。

◎認定第1号～認定第25号の上程、説明、質疑、委員会付託

- 佐藤清春 議長 日程第1、認定第1号平成24年度横手市一般会計歳入歳出決算の認定についてより日程第25、認定第25号平成24年度横手市下水道事業会計決算の認定についてまでの25件を一括議題といたします。

説明を求めます。まず最初に、市長。

【五十嵐忠悦 市長登壇】

- 五十嵐忠悦 市長 おはようございます。

認定第1号平成24年度横手市一般会計歳入歳出決算の認定についてから、認定第22号平成24年度横手市総合財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてまでの22件につきまして、地方自治法第233条第3項の規定に基づき議会の認定をお願いいたしたくご説明申し上げます。

お配りいたしております平成24年度横手市歳入歳出決算書をごらんいただきたいと思います。

私からは、決算書の7ページからの総括表に沿って平成24年度決算の全体的な概要を申し上げます。

平成24年度は、ヨーロッパ主要国の金融危機など世界的に経済が不安定な中で、我が国では東日本大震災からの復旧・復興や原発事故を教訓とした再生可能エネルギー普及などの日本再生に向けた取り組みが図られました。

これらにより、行政需要は増大し、国家財政の赤字は拡大しております。このような状況下で12月に執行された衆議院選挙において政権交代があり、新政権はアベノミクスと呼ばれる経済政策を打ち出したところであります。

当地域においては、大震災や福島原発事故に伴う風評被害の影響が残ったほか、平成24年4月に発生した暴風災害、同年7月の豪雨災害、3年続きの豪雪などにより、市民生活並びに地域経済にマイナスの影響が及びました。

こうした状況下での本市の平成24年度事業であります。緊急雇用創出臨時対策基金事業や新卒者雇用育成支援事業等々で雇用創出を図るとともに、地域経済対策としての産地確立緊急対策事業、水田利活用緊急支援対策事業、農業経営安定化対策事業などを進めてまいりました。

また、安全・安心対策や福祉施策として、老朽危険空き家対策事業、デマンド交通の実証実験、福祉医療の小学生通院費用への拡大などを行ってきたほか、地域価値の創造事業として、伝建推進事業、平泉文化源流事業、スポーツのまちづくり事業などを実施してまいりました。

ハード事業では横手地区中学校統合事業、クリーンプラザよこて整備事業、学校給食センター統合事

業などを計画的に実施してきたところであります。

そのほか、国民健康保険特別会計では、国保加入者の方々の負担軽減と事業の健全な運営を果たすため、国保事業財政健全化計画に基づく3年連続の一般会計からの法定外繰り入れを行ったところであります。

今議会で認定をお願いしております平成24年度一般会計決算の内容について申し上げますと、一般会計歳入歳出決算の収入済額は549億5,454万5,488円でございます。一方、支出済額は530億6,327万5,584円で、差し引きいたしますと18億9,126万9,904円の黒字決算となりました。この額から繰越明許費等によって翌年度へ繰り越すべき一般財源3億2,913万8,950円を差し引いた実質収支は15億6,213万954円の黒字決算となります。

特別会計におきましては、決算書97ページの国民健康保険特別会計から最後に掲載している館合財産区特別会計までの21特別会計について、いずれも黒字決算となっております。

これらの全22会計を合わせますと、歳入の収入済額が822億3,761万1,282円、歳出の支出済額が790億5,930万5,701円で、差し引き31億7,830万5,581円の黒字決算となっております。

次に、主要な財政指標から本市の財政状況について申し上げます。

この財政指標は、一般会計と障害者支援施設特別会計並びに土地区画整備事業特別会計の2つの特別会計から成る普通会計の決算に基づいて算出したものでございます。財政構造の弾力性を示す指数、指標として使われます経常収支比率は86.4となっております。前年度の比率86.6と比較して0.2ポイント改善いたしました。

また、実質公債費比率は12.8となり、前年度の14.5よりも1.7ポイント改善しております。これは、元利償還金及び企業会計の準元利償還金が減少したこと、普通交付税所要額がおおむね確保されたこと、合併特例事業債、過疎対策事業債などの有利な起債の活用による普通交付税算定に係る算入額が大きいことなどによるものでございます。

しかしながら、普通会計における市債残高は平成22年度以降増加傾向にあり、今後も小学校統合事業、クリーンプラザよこて整備事業、消防救急無線デジタル化事業等々の起債を活用したハード事業が控えていることから、着実に行財政改革を進め、将来的に持続可能な財政運営を図る必要があります。

ちなみに、市債の現在高でございますが、平成24年度末の普通会計ベースで632億9,811万円、普通会計を除く特別会計の合計では59億1,080万1,000円で、企業会計を除く全会計では692億891万1,000円となっております。なお、企業会計に関しましては、この後、提案説明が行われますので詳細については省きますが、企業会計の平成24年度末市債現在高は400億1,546万8,000円となっており、企業会計を含む全会計では1,092億2,437万9,000円でございます。

次に、平成24年度末普通会計の基金残高につきましては、財政調整基金が72億4,551万4,000円、減債基金が17億7,744万1,000円、積立型のその他特定目的基金が44億3,690万3,000円となっております。基金を含め、安定した財政運営への今後の対応であります。国による地方交付税など地方歳出見直しの

動きや、普通交付税の合併算定外特例の終了を見据え、財政調整基金などへの積み立てにより歳入減少に備えるとともに、人件費の削減、維持管理コストの縮減、公共施設の統合や長寿命化、事務事業の集中と選択などを推進してまいりたいと考えております。当地域の将来的な発展のため、限りある財源を有効かつ適切に活用し、市民生活の向上と市民福祉の充実に努力してまいりますので、議員の皆様、市民の皆様のご理解とご協力を切にお願いするものでございます。

なお、平成24年度の一般会計並びに特別会計の決算につきましては、監査委員の審査をいただいております。決算審査に当たられました委員のご労苦に対しまして厚く感謝を申し上げます。ご指摘にありましたとおり、収入未済額の解消、不納欠損処分に係る十分な調査と慎重かつ厳正な取り扱いに努めてまいりますとともに、公金、公文書及び契約事務の取り扱いに係るチェック体制の強化につきましては、事務処理の各段階で細心の注意を払い、適正な事務執行を図ってまいる所存であります。お手元に審査意見書が提出されておりますので、ごらんいただきたいと思っております。

また、決算関係資料と主要な施策の成果を説明する書類もあわせて提出しておりますので、ご審議の参考にしていただきたいと存じます。

以上、ご説明を申し上げますが、詳細につきましては会計管理者から説明をいたしますので、ご審議のほどよろしくご説明申し上げます。

以上です。

○佐藤清春 議長 会計管理者。

○佐藤誠 会計管理者 おはようございます。

それでは、一般会計から総合財産区特別会計までの22会計の平成24年度決算につきまして、お手元の歳入歳出決算書に従いまして、ご説明申し上げます。

恐れ入りますが、決算書の11ページをお開き願います。

最初に、一般会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

なお、説明の際、決算書には記載しておりませんが、歳入では収入済額の調定額に対する収入率を、また歳出では支出済額の予算現額に対する執行率をあわせて申し上げますので、よろしくご説明いたします。

初めに、歳入からご説明申し上げます。

1 款市税の収入済額は85億4,591万8,429円で収入率は90.9%であります。不納欠損額は1億800万7,446円、収入未済額は7億4,562万77円でございます。

2 款地方譲与税から11款交通安全対策特別交付金までは調定額と収入済額が同額で、収入率はいずれも100%となっております。それぞれの額の説明は省略させていただきます。

12款分担金及び負担金の収入済額は4億8,130万2,733円、収入率は80.5%で、不納欠損額は45万3,750円、収入未済額は1億1,598万4,586円でございます。

13款使用料及び手数料の収入済額は6億3,887万9,143円、収入率は97.2%、収入未済額は1,833万

9,574円でございます。

14款国庫支出金の収入済額は50億3,151万2,591円、収入率は99.8%となっております。収入未済額は1,167万7,000円ですが、これは継続費、逡次繰越額に係る未収入特定財源でございます。

15款県支出金の収入済額は33億9,441万6,054円で収入率は81.4%となっております。また、収入未済額は7億7,351万4,900円ですが、繰越明許費及び事故繰越に係る未収入特定財源でございます。

16款財産収入の収入済額は2億5,932万2,521円で収入率は99.9%、収入未済額は14万5,594円でございます。

17款寄附金の収入済額は7,844万6,086円で、調定額と収入済額が同額で収入率は100%となっております。

18款繰入金の収入済額は4億9,797万1,020円で、前年度と比較しますと3億6,000万円ほどの増となっております。

19款繰越金の収入済額は21億1,902万9,731円、前年度と比較しますと4,000万円ほどの増となっております。

20款諸収入の収入済額は22億3,940万6,235円で収入率は96.3%、収入未済額は8,560万6,904円でございます。

21款市債の収入済額は73億5,983万7,000円で、前年度と比較しますと4億円ほどの減となっております。

以上、歳入合計の収入済額は549億5,454万5,488円で収入率は96.7%でございます。不納欠損額は1億846万1,196円、収入未済額は17億5,088万8,635円となっております。

次の14ページをお開き願います。

続きまして、歳出をご説明申し上げます。

1款議会費の支出済額は3億3,690万8,767円で執行率は99.4%となっております。

2款総務費の支出済額は46億5,189万2,520円、執行率は95.0%で、翌年度繰越額は5,983万1,000円でございます。繰越事業の主なもの再生可能エネルギー等導入事業であります。

3款民生費の支出済額は134億3,908万5,224円、執行率は94.7%で、翌年度繰越額は2億6,552万円でございます。繰越事業の主なものは保育所整備等特別対策事業であります。

4款衛生費の支出済額は59億1,623万9,431円、執行率は96.4%で、翌年度繰越額は1億1,107万9,950円でございます。繰越事業の主なものは廃棄物処理統合施設整備事業であります。

5款労働費の支出済額は2億8,355万1,669円、執行率は90.7%となっております。

6款農林水産業費の支出済額は26億779万4,740円、執行率は70.9%で、翌年度繰越額は9億1,627万6,000円でございます。繰越事業の主なものは強い農業づくり交付金事業であります。

7款商工費の支出済額は17億8,353万9,344円、執行率は95.9%となっております。

8款土木費の支出済額は57億4,982万239円、執行率は84.1%で、翌年度繰越額は8億752万8,000円で

ございます。繰越事業の主なものは地方道路交付金事業、公営住宅整備事業であります。

9款消防費の支出済額は18億3,672万5,771円、執行率は98.6%となっております。

10款教育費の支出済額は66億6,583万4,325円、執行率は96.9%で、翌年度繰越額は1億1,839万9,000円でございます。繰越事業の主なものは学校給食センター統合事業であります。

11款災害復旧費の支出済額は3億5,129万977円、執行率は49.8%、翌年度繰越額は3億3,120万円でございます。繰越事業の主なものは道路橋りょう災害復旧費であります。

12款公債費の支出済額は66億1,314万9,513円で執行率は99.9%となっております。

13款諸支出金の支出済額は28億2,744万3,064円、執行率は99.9%となっております。

14款予備費につきましては、4,136万3,000円が各項目へ充当されております。

歳出合計の支出済額は530億6,327万5,584円で、執行率は92.8%となっており、翌年度繰越額は26億983万3,950円、不用額は14億8,016万4,577円でございます。

なお、歳入歳出の詳細につきましては、17ページから95ページまでの事項別明細書に記載のとおりでございます。

次に、96ページをお開き願います。

実質収支に関する調書をご説明させていただきます。

3の歳入歳出差引額は18億9,126万9,000円で、4の翌年度へ繰り越すべき財源の計は3億2,913万8,000円となり、3の歳入歳出差引額から4の翌年度へ繰り越すべき財源を控除した5の実質収支額は15億6,213万1,000円でございます。これは前年度と比べますと、2億6,700万円ほどの減となっております。

次に、特別会計についてご説明申し上げます。

97ページをお開き願います。

特別会計につきましては、歳入歳出の合計欄についてご説明させていただきます。

それでは、国民健康保険特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

次のページの歳入合計をごらん願います。

収入済額は124億2,745万3,173円で収入率は94.8%、不納欠損額は9,485万3,082円で収入未済額は5億8,788万7,587円となっております。

次に、歳出合計ですが、100ページをお開き願います。

支出済額は117億549万6,737円で執行率は95.7%、不用額は5億2,853万5,263円となっております。歳入歳出差引額は7億2,195万6,436円で実質収支額も同額となっております。

次に、111ページをお開き願います。

後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は9億2,673万9,144円で収入率は99.6%、不納欠損額25万5,500円、収入未済額は371万154円となっております。

次ページをお開き願います。

歳出合計の支出済額は9億2,447万8,424円で執行率は99.7%、不用額は259万2,576円となっております。歳入歳出差引額は226万720円で実質収支額も同額となっております。

次に、118ページをお開き願います。

介護保険特別会計歳入歳出決算でございます。

次のページ、歳入合計の収入済額は103億8,452万7,262円で収入率は99.7%となっております。不納欠損額は584万8,265円で収入未済額は2,028万9,035円となっております。歳出合計の支出済額は101億1,638万1,920円で執行率は96.6%、不用額は3億6,146万8,080円となっております。歳入歳出差引額は2億6,814万5,342円で実質収支額も同額となっております。

次に、130ページをお開き願います。

介護サービス事業特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は5,191万5,029円で収入率は100%となっております。歳出合計の支出済額は2,736万4,956円で執行率は87.9%、不用額は378万4,044円でございます。歳入歳出差引額は2,455万73円で実質収支額も同額となっております。

次に、136ページをお開き願います。

特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は7億4,882万8,603円で収入率は99.7%、収入未済額は222万6,760円となっております。歳出合計の支出済額は7億4,874万2,116円で執行率は96.1%、不用額は3,012万3,884円でございます。歳入歳出差引額は8万6,487円で実質収支額も同額となっております。

次に、143ページをお開き願います。

介護老人保健施設特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は5億578万3,645円で収入率は99.8%、収入未済額は114万9,031円となっております。

次のページをお開き願います。

歳出合計の支出済額は4億9,374万4,915円で執行率は97.3%、不用額は1,395万6,085円でございます。歳入歳出差引額は1,203万8,730円で実質収支額も同額となっております。

次に、149ページをお開き願います。

指定通所介護事業特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は8,118万6,256円で収入率は100%となっております。

次のページをお開き願います。

歳出合計の支出済額は7,378万7,870円で執行率は94.7%、不用額は415万4,130円でございます。歳入歳出差引額は936万8,386円で実質収支額も同額となっております。

次に、156ページをお開き願います。

障害者支援施設特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は3億301万4,659円で収入率は100%となっております。

次のページをお開き願います。

歳出合計の支出済額は2億8,115万2,081円で執行率は94.0%、不用額は1,784万5,919円でございます。歳入歳出差引額は2,186万2,578円で実質収支額も同額となっております。

次に、161ページをお開き願います。

市営温泉施設特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は7億2,066万2,849円で収入率は99.9%、収入未済額は1,510円となっております。

次のページをお開き願います。

歳出合計の支出済額は6億6,621万7,029円で執行率は93.5%、翌年度繰越額は312万9,000円でございます。これは大森健康温泉真空ヒーター取替事業であります。不用額は4,343万5,971円でございます。歳入歳出差引額は5,444万5,820円で、翌年度への繰越財源312万9,000円を引いた実質収支額は5,131万6,820円となっております。

次に、170ページをお開き願います。

土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は3億3,297万4,394円で収入率は100%となっております。歳出合計の支出済額は2億2,257万2,065円で執行率は83.5%、翌年度繰越額は1,810万円で不用額は2,573万9,935円でございます。繰越事業は三枚橋地区単独事業及び総合交付金であります。歳入歳出差引額は1億1,040万2,329円で翌年度への繰越財源695万4,000円を引いた実質収支額は1億344万8,329円でございます。

次に、175ページをお開き願います。

集落排水事業特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は6億6,190万6,436円で収入率は92.4%、不納欠損額は18万536円で収入未済額は5,459万5,378円となっております。歳出合計の支出済額は6億3,432万1,729円で執行率は83.6%、翌年度繰越額は1億76万8,000円で不用額は2,329万1,271円でございます。繰越事業の主なものは集落排水施設機能強化事業であります。歳入歳出差引額は2,758万4,707円で翌年度への繰越財源8万4,000円を引いた実質収支額は2,750万707円となっております。

次に、184ページをお開き願います。

浄化槽市町村整備推進事業特別会計歳入歳出決算でございます。

歳入合計の収入済額は1億2,242万9,507円で収入率は99.5%、収入未済額は56万4,500円となっております。歳出合計の支出済額は9,151万9,167円で執行率は97.5%、不用額は237万4,833円でございます。歳入歳出差引額は3,091万340円で実質収支額も同額となっております。

続きまして、198ページからは財産区特別会計9会計の決算であります。大変失礼とは存じますが

一括での説明とさせていただきますので、ご了承をお願い申し上げます。

恐れ入りますが、前に戻りまして8ページをお開き願います。

8ページ、下から3行目にございます横手町四町財産区特別会計から、次の横手地域財産管理特別会計、前郷地区特別会計、金沢中野財産区特別会計、西成瀬財産区特別会計、醍醐財産区特別会計、里見財産区特別会計、福地財産区特別会計、館合財産区特別会計までの9会計の歳入であります。収入済額は総額で1,564万4,837円、収入率はいずれの会計も100%でございます。一方、歳出であります。支出済額は総額で1,025万1,108円、平均の執行率は58.7%で不用額は720万2,892円となっております。歳入歳出差引額は合わせて539万3,729円で実質収支額も同額となっております。

これで簡単ではありますが各会計の決算説明は終わりますが、会計ごとの歳入歳出の詳細につきましては、それぞれの事項別明細書を、また財産に関する調書及び基金運用状況報告書は190ページから196ページに、財産区特別会計についてはそれぞれの会計の末尾に財産に関する調書を記載しておりますので、ごらんいただきたいと思ひます。

以上をもちまして、平成24年度の一般会計並びに21の特別会計の決算説明を終わります。よろしくご審議の上、認定いただきますようお願い申し上げます。

○佐藤清春 議長 横手病院事務局長。

○佐藤正弘 市立横手病院事務局長 それでは、認定第23号平成24年度横手市病院事業会計決算の認定についてご説明申し上げます。

決算書は別冊になっておりますので、よろしくお願ひいたします。

本案は、地方公営企業法第30条第4項の規定に基づきまして本議会の認定をお願いしようとするものでございます。

それでは、横手市病院事業会計決算書の1ページ、2ページをお開きください。

初めに、収益的収入及び支出についてご説明いたします。

収入の決算額の合計が72億4,344万210円に対しまして支出の決算額の合計は73億1,190万767円で、収入から支出を差し引きいたしますと6,846万557円の損失となります。この額から消費税相当分を控除した額7,896万5,357円が、平成24年度の純損失でございます。

それでは、内訳についてご説明いたします。

収入の状況でございますが、第1款市立横手病院事業収益では、予算額51億6,945万3,000円に対して決算額49億5,861万9,589円で、収入率は95.9%であります。第1項医業収益では、決算額46億2,350万9,859円で収入率は95.5%、第2項医業外収益では、決算額3億3,465万240円で収入率は101.3%、第3項特別利益は、決算額45万9,490円でございます。

また、第2款市立大森病院事業収益では、予算額23億8,397万3,000円に対し決算額22億8,482万621円で、収入率は95.8%であります。第1項医業収益では、決算額20億7,837万9,624円で収入率は95.4%、第2項医業外収益では、決算額2億644万997円で収入率は100.4%であります。

次に、支出の状況であります。第1款市立横手病院事業費用では、予算額51億6,945万3,000円に対し決算額49億7,800万8,392円で、執行率は96.3%であります。第1項医業費用では、決算額49億1,086万3,954円で執行率は96.3%、第2項医業外費用では、決算額6,686万5,068円で執行率は97.4%であります。また、第3項特別損失では、決算額27万9,370円で執行率は27.9%となっております。第4項予備費でございますが、弁護士への報酬の支払いに充てるため、第1項医業費用に31万5,000円を充用しております。また、収益費用の詳細につきましては、決算書の22ページ以降に記載されておりますので、説明は省略させていただきます。収入から支出を差し引きいたしますと1,938万8,803円の損失であります。消費税相当分を控除した2,741万5,303円が平成24年度の純損失であります。

第2款市立大森病院事業費用では、予算額23億8,397万3,000円に対し決算額23億3,389万2,375円で、執行率は97.9%であります。第1項医業費用では、決算額22億6,700万7,245円で執行率は97.9%、第2項医業外費用では、決算額6,617万4,451円で執行率は99.2%であります。第3項特別損失では、決算額0円となっております。第4項国保直診施設事業費では、71万679円の決算額となっております。第5項予備費では、賠償金支払いのための経費6万5,000円を第2項医業外費用に充用しております。

なお、収益費用の詳細につきましては、横手病院同様、決算書の22ページ以降に記載されておりますので、説明は省略させていただきます。収入から支出を差し引きいたしますと、4,907万1,754円の損失であります。消費税相当分を控除した5,155万54円が平成24年度の純損失であります。

続きまして、資本的収入及び支出についてご説明いたしますので、3ページ、4ページをお開きください。

収入の決算額の合計が9億5,117万7,000円に対しまして、支出の決算額の合計は14億9,317万9,512円で、資本的収入額が資本的支出額に不足する額5億4,200万2,512円は過年度分損益勘定留保資金で補填をしております。

収入の内訳ですが、第1款市立横手病院資本的収入では、予算額3億1,583万5,000円に対し決算額も同額であります。第1項他会計出資金では1億1,483万5,000円、第2項企業債では2億100万円の決算額であります。

第2款市立大森病院資本的収入では、予算額6億3,534万2,000円に対し決算額も同額であります。第1項他会計出資金では1億3,358万2,000円、第2項企業債では4億9,950万円、第3項国県補助金では226万円の決算額であります。

次に、支出についてでございますが、第1款市立横手病院資本的支出では、予算額7億5,308万3,000円に対し決算額は7億2,359万566円であります。第1項建設改良費では、決算額2億5,734万4,246円、第2項企業債償還金は、決算額4億6,624万6,320円であります。

第2款市立大森病院資本的支出では、予算額8億1,303万3,000円に対し決算額は7億6,958万8,946円であります。第1項建設改良費では、決算額5億2,396万7,503円、第2項企業債償還金では、決算額2億4,562万1,443円あります。建設改良費の内訳につきましては、決算書の13ページから16ページに記

載しておりますので、説明は省略させていただきます。

次に、病院事業の概要をご報告申し上げますので、9ページをお開きください。

市立横手病院の場合でございます。診療科目は内科など16科を標榜しておりますが、医師確保の都合上、耳鼻咽喉科は休診中でございます。病床数は、一般病床225床、感染症病床4床の229床で運営いたしました。

患者さんの利用状況は、入院が一般病床で延べ6万5,265人、病床利用率は79.5%で、前年度と比較して3,951人の減、外来では16万2,575人で、前年度と比較して7,629人の減となっております。料金収入では一人1日当たり、入院では4万3,651円、外来では9,205円で、前年度と比較して、入院で1,085円の増、外来で120円の増となっております。建設改良では、総額2億5,734万4,246円で整備を行ったところです。施設整備といたしまして、電話交換器の更新工事やA棟非常用照明設備更新等の工事を行ったほか、職員駐車場の用地を取得しております。また、医療機器では低温プラズマ滅菌装置、手術室生体情報管理システム、眼科手術用機器の整備を行いました。

収支につきましては2,741万5,303円の純損失となりました。この要因は、入院患者と外来患者が減ったことにより入院外来収益が減少した一方で、看護師等の医療スタッフの増による人件費の増、施設や高度医療機器等の維持、保守・管理に係る経費の増加、医療機器の除却に係る費用の増加によるものです。

次に、市立大森病院について申し上げます。診療科目は内科など9科を標榜しておりますが、医師確保の都合上、泌尿器科は休診中でございます。病床数は、一般病床100床、療養病床50床の150床で運営いたしました。

患者さんの利用状況は、入院が延べ人数で5万4,650人、病床利用率は99.8%で、前年度と比較して1,166人の減、外来は7万2,567人で、前年度と比較して2,336人の増となっております。料金収入では、一人1日当たり、入院で2万7,633円、外来で6,237円で、前年度と比較して、入院で57円の増、外来で149円の増となっております。

建設改良では、総額5億2,396万7,503円で整備を行ったところであります。女性医師、看護師等の人材確保と職員の就労環境改善のため、昨年度着手いたしました院内保育所及び職員更衣室等増築事業が完了し、職員更衣室等につきましては一部供用を開始しております。また、院内保育所につきましては、名称を職員の公募により「森のこハウス」と決定し、本年4月1日に開所しております。また、医療機器整備としてはX線テレビシステム、電子カルテ等の医療情報システムの更新、膀胱用超音波画像診断装置や経直腸プローブを新たに導入するなど、患者サービスの向上を図っております。

収支につきましては、5,155万54円の純損失となりました。赤字の要因としましては、医業収益の伸び悩みとは逆に医業費用が大きく増加したことによります。マンパワー確保による給与費の増加、平成20年度よりのCT装置、MRI等の高度医療機器の更新による保守点検経費、減価償却費等の増加により2カ年連続の赤字決算となりました。

以上、平成24年度の概要を申し上げます。

本年度は両病院とも赤字決算となりましたが、今後も患者に選ばれる病院を目指し、経費の節減に努めるなど、より一層健全な病院運営を図るとともに、両病院が互いに連携し協力しながら地域の医療を確保し、患者のニーズを踏まえた質の高い医療、安全で安心な医療の提供をさらに充実させてまいります。

以上で説明を終わります。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○佐藤清春 議長 上下水道部長。

○鈴木弘志 上下水道部長 ただいま議題となりました認定第24号平成24年度横手市水道事業会計決算の認定についてご説明申し上げますので、別冊となっております横手市水道事業会計決算書をごらん願いたいと思います。

本案は、地方公営企業法第30条第4項の規定に基づきまして本議会の認定をお願いしようとするものでございます。

それでは、決算書の2ページ、3ページをお開き願います。

初めに、収益的収入及び支出についてご説明申し上げます。

収入の決算額の合計19億525万9,277円に対し、支出の決算額の合計は16億2,283万6,422円で、収入から支出を差し引きますと2億8,242万2,855円ですが、この額から消費税関係分を控除した1億4,155万2,307円が平成24年度の純利益となっております。

それでは内訳についてご説明申し上げます。

収入の状況であります。第1款水道事業収益では、予算額17億8,051万8,000円に対し決算額19億525万9,277円で、収入率は107%です。第1項営業収益は、給水収益などで決算額17億6,073万9,937円で、収入率は102.7%です。第2項営業外収益は、他会計補助金などで決算額1億4,451万9,340円で収入率は221.0%です。

次に、支出の状況であります。第1款水道事業費用では、予算額17億2,283万3,000円に対し決算額16億2,283万6,422円で、執行率は94.2%です。内訳といたしましては、第1項営業費用は、原水及び浄水費などで、決算額12億8,735万6,187円で執行率93.3%です。第2項営業外費用は、企業債利息などで、決算額3億2,630万8,685円で執行率は99.9%です。第3項の特別損失は、決算額917万1,550円で執行率82.1%となっております。なお、第4項の予備費の執行はございませんでした。

詳細につきましては、決算書の27ページ、28ページに記載のとおりでございますので、説明を省略させていただきます。

続きまして、資本的収入及び支出についてご説明申し上げます。4ページ、5ページをお開き願います。

収入の決算額の合計が32億9,640万1,350円に対し、支出の決算額の合計が43億2,909万8,440円で、資本的収入額が資本的支出額に不足する額10億3,269万7,090円は、過年度分損益勘定留保資金8億3,416

万6,202円、引継金5,828万8,996円及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1億4,024万1,892円で補填をしております。

収入の状況であります。第1款資本的収入では、予算額32億8,808万9,000円に対し決算額は32億9,640万1,350円で、収入率は100.3%です。第1項企業債は、決算額21億110万円で収入率は100%です。第2項出資金は決算額5億9,947万6,000円で、これも収入率は100%です。第3項国庫補助金は、決算額5億7,152万1,000円で、収入率は101%です。第4項の工事負担金は、決算額355万6,350円で、収入率は74.8%です。第5項の水道加入金は、決算額2,074万8,000円で、収入率は122.8%となっております。

次に、支出の状況でございますが、第1款資本的支出では、予算額46億493万5,000円に対し決算額43億2,909万8,440円で、執行率は94%です。第1項の建設改良費では、決算額36億257万1,263円で、執行率は92.9%です。第2項の企業債償還金は、決算額7億2,652万7,177円で、執行率は100%となっております。

次に、水道事業の概要を報告させていただきますので、10ページをお開き願います。

平成24年度の給水件数は、前年度比較24件増の3万399件、給水人口は前年度比較1,187人減の7万9,489人となっております。また、年間配水量は、前年度比較14万5,812立方メートル減の1,054万3,824立方メートル、有収水量は、前年度比較4万4,840立方メートル減の810万1,747立方メートルであります。有収率につきましては、前年度比較0.63%増の76.84%となっております。

近年、有収率につきましては減少傾向が続いておりましたが、毎年、地域を替えて漏水調査を行っており、配水管からの漏水については発見次第、修繕を実施していることから、平成24年度は改善されたところでございます。今後とも継続的に漏水調査を行い、老朽管の更新を計画的に行いながら有収率の向上に努めてまいります。

次に、建設事業の状況でございますが、市内各地の安定給水を図るために老朽設備の更新、災害時の給水拠点となる施設への管路耐震化、配水管の新設及び布設替え工事1万7,123.9メートルを実施し、その事業費といたしまして36億257万1,263円を投資しております。水道未普及地区の解消は、増田戸波地区、在城地区、平鹿萩ノ目地区で、新たに配水管布設工事を実施いたしました。大沢第二浄水場整備事業では、浄水場本体工事に着手し、あわせて既存配水池への送水管布設工事を実施しております。

経営状況では、当年度純利益が1億4,155万2,307円となり、給水原価も前年度比較3円55銭減の195円93銭と改善することができました。また、高利率の企業債につきましても繰上償還を行い、将来支払利息の軽減に努めているところでございます。

以上で説明を終わります。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

続きまして、認定第25号平成24年度横手市下水道事業会計決算の認定についてご説明申し上げますので、これも別冊となっております。横手市下水道事業会計決算書をごらんいただきたいと思っております。

本案は、地方公営企業法第30条第4項の規定に基づきまして本議会の認定をお願いしようとするもの

でございます。

それでは、決算書の2ページ、3ページをお開き願います。

初めに、収益的収入及び支出についてご説明申し上げます。

収入の決算額の合計16億4,904万790円に対し、支出の決算額の合計は16億4,014万8,734円で、収入から支出を差し引きますと889万2,056円であります。この額から消費税関係分を控除した43万8,860円が平成24年度の純損失となっております。

それでは、内訳についてご説明申し上げます。

収入の状況であります。第1款下水道事業収益では、予算額16億3,477万2,000円に対し決算額16億4,904万790円で収入率は100.9%です。第1項営業収益は下水道使用料などで、決算額6億7,305万1,788円で収入率は101.3%です。第2項営業外収益は他会計補助金などで、決算額9億7,598万9,002円で収入率は100.6%です。

次に、支出の状況であります。第1款下水道事業費用では、予算額16億8,588万5,000円に対し決算額16億4,014万8,734円で、執行率は97.3%です。内訳といたしましては、第1項営業費用は、流域下水道維持管理費や減価償却費などで、決算額12億610万9,076円で執行率97.2%です。第2項の営業外費用は、企業債利息などで、決算額4億2,983万1,307円で執行率は98.3%です。第3項の特別損失は、決算額420万8,351円で執行率98.1%となっております。なお、第4項の予備費の執行はございませんでした。

詳細につきましては、決算書の24ページ、25ページに記載のとおりでございますので、説明を省略させていただきます。

続きまして、資本的収入及び支出についてご説明申し上げますので、4ページ、5ページをお開き願います。

収入の決算額の合計が11億3,695万3,859円に対し支出の決算額の合計が17億530万7,732円で、資本的収入額が資本的支出額に不足する額5億6,835万3,873円は、当年度分損益勘定留保資金3億7,726万2,850円、引継金1億8,184万7,405円及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額924万3,618円で補填をしております。

収入の状況であります。第1款資本的収入では、予算額12億3,240万5,000円に対し決算額は11億3,695万3,859円で、収入率は92.3%です。第1項の企業債は、決算額6億110万円で、収入率は91.8%です。第2項の出資金は、決算額3億8,409万1,000円で、収入率は100%です。第3項の補助金は、決算額5,981万6,150円で、収入率は55.2%です。第4項の負担金は、決算額9,194万6,709円で、収入率は107.8%となっております。

次に、支出の状況であります。第1款資本的支出では、予算額18億2,111万8,000円に対し決算額17億530万7,732円で、執行率は93.6%となっております。第1項の建設改良費では、決算額3億5,112万8,326円で、執行率は75.2%です。第2項の企業債償還金は、決算額13億5,417万9,406円で、執行率は100%となっております。

次に、下水道事業の概要を報告させていただきますので、10ページをお開き願います。

下水道事業では、生活環境の保全と公共用水域の水質保全を図るため、公共下水道、集落排水、浄化槽事業の整備を進めております。平成24年4月1日には、公共下水道事業に地方公営企業法の全部を適用する企業会計方式へ移行し、経営状況や財政状態を明確にし、さらなる効率化、健全化に努めております。平成24年度の公共下水道事業の水洗化人口は、前年度比較579人増の3万152人で、水洗化率は前年度比較1.62ポイント増の65.38%となっております。年間総処理水量は、前年度比較1万6,070立方メートル増の399万3,301立方メートルで、有収率につきましては前年度比較1.62ポイント増の96.55%となっております。建設改良事業では、横手、平鹿、雄物川、十文字の未普及地域へ管渠敷設工事を1,689.2メートルを実施しております。

経営状況では、公営企業法の適用初年度となる当年度は、43万8,860円の純損失となっておりますが、当初予算では損失額を消費税込みで約7,300万円と見込んでおりましたが、収益の確保と経費の削減に努め、損失額を圧縮することができました。下水道事業の整備には巨額の資金が必要となる一方、人口減少や節水意識の定着により、下水道使用料の増収が期待できない状況にあります。今後も大変厳しい経営が続くことが予想されますので、市民の皆様方にこうした経営状況をしっかりと説明し、ご理解をいただきながら有収水量の確保に向けた水洗化促進や一層の経費節減に努めてまいります。

以上で説明を終わります。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○佐藤清春 議長 暫時休憩いたします。

再開時間は午前11時25分といたします。

午前11時15分 休憩

午前11時25分 再開

○佐藤清春 議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

○佐藤清春 議長 ただいまから質疑を行います。質疑ありませんか。今、説明された全部について。

14番堀田賢逸議員。

○14番（堀田賢逸議員） 全部だということ。

認定第25号の下水道事業会計の一番後ろの企業債明細書、この関係、私よくわからないところがありまして聞かせてもらいたいと思います。

まず、利率がピンからキリまでありまして、4.95%というのが一番高かったと、そう思っております。平成24年のものが0.863%と、4%近く、4%以上違っていると。高いのが地方公共団体金融機構というところで低いのが秋田銀行さんと、そういう感じで。当然この説明にも、高金利の企業債については金利負担の軽減を図ったとありますので具体的にやっていると思いますが、どのような考えでこういうことをやっているのか、そこら辺を少し教えてください。いいですか。

○佐藤清春 議長 ただいまの質問の要旨わかりますか。理解できますか。

上下水道部長。

○鈴木弘志 上下水道部長 5.5%以上の高利率のものに対して返還をしながら、低い利率のものに替えていっているという状況でございます。

以上です。

○佐藤清春 議長 14番堀田賢逸議員。

○14番（堀田賢逸議員） 今の話はちょっと違うのかなと思うけれども、臨時特例措置とかというのがあって、それは何年からやったかというのはちょっといろいろあると思いますけれども、このごろはそういうのはやっているのでしょうか。まず、前、平成19年から3年間かはあったとかと聞いていますけれども、このごろはどうでしょうか。

それから、今部長が言ったように5%以上のものはこの表には一覧にはなくて、一番高いのが4.95%なんだよな。だから5%とはちょっと違うのかなと思っていますが、もう一回お願いします。

○佐藤清春 議長 財務部長。

○石山清和 財務部長 私のほうから答弁といいますか、お話しさせていただきたいと思います。

2010年度からでありますけれども、向こう3年間というような形で、自治体の中で過去に借り入れしました5%以上の金利に対しまして、これらに補償金を免除する形で特例を設けてございます。これは総務省のいわゆる承認が必要なものでございまして、一概に全てが私どもの希望どおりにはいかないというふうなこともございます。

例えば平成24年度であれば、33団体のそれぞれ許可がおりて高金利のものをそれぞれ借り替えという形、あるいは繰上償還という形ですね、繰上償還という形が実施されて大体37億円ぐらい総務省でこの適用を受けているようでございます。今回の上下水道部の状況につきましても、これらに適合した形のものというふうに考えているところであります。

○佐藤清春 議長 14番堀田賢逸議員。

○14番（堀田賢逸議員） 簡単にいえば、国の許可が出るとこういうことができるというように、今そういう理解をすればそれでいいのかということをお願いします。

○佐藤清春 議長 財務部長。

○石山清和 財務部長 やはり地方債、国全体の地方債の計画もございまして、一概に全ての希望をかなえるということは国の財源的な問題からそれはできない。そういった意味では、総務省にイニシアチブがあるわけでありまして、総務省の判断の中でそうした適用をする、高金利の借り入れに対する償還の許可を出すという形になっているようでございます。

○佐藤清春 議長 14番堀田賢逸議員。

○14番（堀田賢逸議員） それからこの一覧表を見てみると、以前は、財政融資資金とか地方公共団体の金融機構とか、それから簡保資金とか借りているようですが、このごろは銀行さんが増えてきている

と。ここら辺はどう考えればいいのか、そこを教えてください。

○佐藤清春 議長 財政課長。

○三浦淳 財務部財政課長 ただいまの件、お答えいたします。

地方債計画の中で、総計画の中での資金のやりとり、割り当ての中で対応するという形でそのような傾向になっていると思います。

○佐藤清春 議長 ほかに質疑ありませんか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

○佐藤清春 議長 質疑なしと認めます。

お諮りいたします。

平成24年度横手市一般会計歳入歳出決算の認定について外24件については、26人の委員で構成する決算特別委員会を設置し、この特別委員会に付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○佐藤清春 議長 ご異議なしと認めます。したがって、本決算は、26人で構成する決算特別委員会を設置し、この特別委員会に付託の上、審査することに決定いたしました。

ただいま設置されました決算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定によりお手元に配付しております一覧表のとおり26人を議長が指名いたします。

◎休会について

○佐藤清春 議長 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

お諮りいたします。

明8月28日から9月2日までの6日間、休会いたしたいと思っておりますが、これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○佐藤清春 議長 ご異議なしと認めます。したがって、明8月28日から9月2日までの6日間休会することに決定いたしました。

9月3日は午前10時から本会議を開きます。

◎散会の宣告

○佐藤清春 議長 本日はこれで散会いたします。

ご苦労さまでした。

午前11時33分 散会

